

ここ数年サボリ気味であった2月の社会委員会学習会ですが、今年は実現することができました。委員会活動が活発な港南台教会は、スケジュールを立てるのも大変ですが、今回はわがままを言って、1月最終日曜日に学習会を行わせていただきました。学習会に参加したいと考えつつも、他の委員会とのブッキングで参加できない方が多くいらっしまったと思います。大変もうしわけなく思いますが、この通信をお読みいただき、少しでも学習会の内容をお伝えできればと願っています。今回は、神奈川教区のヤスクニ・天皇制問題小委員会作成のリーフレット「首相の靖国参拝、何が問題?!」をテキストに学習会を行いました。

社会問題は時間との闘いでもあります。実はこの学習会の計画段階では、1月の小泉首相の靖国神社参拝は全くもって予想もしていませんでした。しかしながら、小泉首相は、周到的な政治日程のなかに位置づけていたのでしょう。信教の自由が保障されている我が国の指導者が、信教の自由を踏みにじり続ける行為がなされたわけです。この重大な事件に対して、私たちは憤り（もしくは不快感?）を覚えます。しかし、ただ憤るだけ、不快感を持つだけでは、私たちの信仰は踏みにじられ続けるのです。

私たちは、学ぶことができます。声をあげることができます。そして、祈ることができるのです!

今回の参加者は12名(女性7名・男性5名)でした。人数的には細々としたものでしたが、力強く学習会は行われました。今回初めて社会委員会の学習会に参加された方がいらっしゃいました。我々社会委員会のメンバーはその方の参加にとてつもないパワーをいただきました。感謝・感謝!

リーフレットは残部稀少です。お求めはお早めに!!

(社会委員長：A・K)

社会委員会学習会：テキスト『首相の靖国参拝、何が問題?!』

## 📖 はじめに (A・K)

ご存知のように、小泉首相は2003年1月14日(火)に靖国神社を参拝しました。これは、首相になってから3回目の参拝です。1回目は2001年8月13日。2回目は2002年4月21日。そして今年の参拝が3回目です。

私たちは、首相に限らず、閣僚や知事が靖国参拝をするニュースを見たり、読んだりすると、不快感というか、怒りと悲しみをおぼえるわけですが、ただ不快感を持っているだけではなにも始まりません。キチンと抗議したり、人々に靖国参拝の問題性を訴えたりすることが必要なのです。

私もSさんも神奈川教区のヤスクニ・天皇制問題小委員会のメンバーで、ヤスクニ問題や天皇制問題・「日の丸・君が代」問題について、委員会として考えたり行動したりしています。いわばヤスクニ・ウオッチャー、天皇ウオッチャーです。「首相の靖国参拝、何が問題?!」のリーフレットを編集・発行したのも私たちの活動から生まれてきたものです。

このリーフレット作成の端緒となったのは、小泉首相の1回目の参拝でした。自民党総裁

選から靖国参拝を明言していた靖国問題に関しては要注意人物でした。そして、首相になり2001年8月13日、小泉首相は靖国を参拝しました。このときの報道をおぼえている方も多いと思いますが、マスコミ各社はずっと追っかけていました。これは、その前に参拝した橋本龍太郎元首相からかなりの年月がたっていたからです。5年振りです。

この参拝は、当然ながら国内外で参拝に対する賛否の激論が行われましたが、キリスト教界では、どうだったのでしょうか？ 我々の委員会では、もちろん行動しなければ・・・、と考えました。そしてその考えの中に、「教会全体を巻き込むような運動をしたい」というものがありました。大げさな言い方ですが、キチンとヤスクニ参拝反対のしっかりとした意見を自分の中に持つ、それを述べられる、相手に伝える、そういうことを可能にする基礎的な知識を共有する必要性がキリスト教界には必要だと考えていました。そこで、教界内・教会内で有効に活用してもらえるような、リーフレット作成という案が浮かび上がりました。リーフレット作成に関しては、実に16回の会議が行われました。港南台教会の集会室で10時過ぎまで議論するようなこともありました。

焦点は小泉首相の2回目の参拝阻止でした。これを目標にリーフレット発行を準備していたら、小泉首相の2回目の参拝は8月ではなく、4月21日(春の例大祭)でした。結果的に、リーフレットは首相の2回目の参拝には間に合いませんでしたが、逆に小泉首相は、ヤスクニ参拝を重要視する要注意人物であるという認識も新たになりました。そこで、当初の予定からは時期的にははずれましたが、8月の神奈川の平和学習会に向け「リーフレット試作版」を準備し、発行しました。そしてその2ヵ月後、バンザイ訴訟の地裁判決(敗訴)、地裁判決を受けて、本編が完成しました。

当初の目的は、私たちの中で、ヤスクニ問題に対する認識を高め、自分の言葉で、ヤスクニ参拝に反対する、意見を持つ、述べる、伝えるということでしたから、このような学習会が与えられたことは、その目的に本当に合致するものだと思います。ヤスクニの問題性を教会内に、そして教区にも、教団にも、と広げていきたいと考えています。

## ◆ 『首相の靖国参拝』に対して (S・E)

小泉首相は、今年1月14日、突如として3度目の靖国神社参拝を強行しました。リーフレット『首相の靖国参拝、何が問題?!』(神奈川教区ヤスクニ・天皇制問題小委員会編)のうち、「首相は問題!!」で私たちが批判したことは、残念ながらまだ首相には届いていなかったようです。これはコイズミ・ジュンイチロウさん個人の問題ではなく、日本の首相として行った“事件”です。だから首相が「なぜ、反対するのかわからない」などと、答えをかわしてよいことではありません。現に、この姿勢には、日本の平和への決意、侵略戦争への反省がうわべだけのことかと、中国・韓国からの批判にさらされています。

外国の批判ももちろんですが、その前に小泉首相は、まず国民の批判を聞かなければなりません。リーフレットでは、この問題は日本人自身の課題だと指摘しました。問題の合祀された東条英機元首相らA級戦犯のことも、もとはといえばアメリカなど連合国側ではなく、日本人自身がその戦争犯罪を追及しなければならなかった課題です。

もし、日本の法廷で「犯罪」とされたならば、首相がそこに参拝に行って「尊い犠牲であったから追悼の誠を捧げる」ことは出来ないはずです。法廷の判断をホゴにしたことになるからです。侵略戦争を国民としてどう評価するかという問題であることに、首相は眼をつぶっています。それともこれはお得意の規制緩和でしょうか(お手盛りの!)。

戦後の日本は、A級戦犯に限らず、靖国神社に戦没兵士を祀ること自体から決別したのです。憲法の条項(信教の自由、政教分離)は、その意志を示したものでした。50年前に終わっ

たあの戦争がどのようなものとして考えているか、また戦争にどう関わるか、小泉首相の思想が透けて見えるような、参拝が続きました。インド洋にイージス艦を派遣した首相は、新しい戦没者を考えているのではないかと、思わざるを得ません。30年前「靖国神社国家護持法案」が国会に出たとき、「新しい戦没者が出る、靖国法案反対！」というビラをまきました。そのことがいまや現実のものになりつつあることを憂います。

### ◆ ヤスクニ参拝肯定のロジックは欺瞞でしかない！（A・K）

リーフレット作成にあたって、私は自分自身の興味もあり、委員会のなかでは「追悼問題」の担当でした。首相の今回(1月)の参拝では、前回(昨年4月)のような「所感」は表明しませんでした。マスコミに対しては「不戦の決意」なるものを強調して述べていました(昨年4月の参拝では「不戦の誓い」)。靖国神社の歴史性からみて、「不戦の決意」の場には最も相応しくないものであることは言うまでもありません。しかし、「不戦の決意」とは裏腹に、日本は平和とは正反対の方向へ進路をとっています。不戦の決意というのは「追悼」のポーズでしかなく、そのロジックはまやかしなのです。我が国の指導的立場にある人が戦没者を「追悼」するとき、そこに加害と被害とをわける線が明確に引かれているのでしょうか？「追悼」=「加害の忘却」という刷り込みが、今日様々な場でなされていると感じざるをえません。

全国戦没者追悼式という政府主催の行事があります。この式典は天皇の「おことば」を中心とし、「日の丸・君が代」に彩られた儀式です。アジア・太平洋戦争で、天皇の名のもとに「戦死」を強制された人々の遺族に向かって、天皇(制)が自己批判もせず、加害も被害も問わないまま、「追悼」するということが許されるのでしょうか？「追悼」という名の加害の忘却に対して私たちは注意を払う必要を強く感じます。

また、昨今問題になっていきている「国立墓苑構想」ですが、無宗教をタテマエとした施設建設が浮上してきています。ヤスクニとは切っても切れない、「A級戦犯問題」の回避という線が強調されていますが、ここにも「追悼」があります。「戦死者の追悼」があるのです。「国立墓苑構想」は決して戦死者を出さないためのものではないのです。これから起るかもしれない、将来の戦死者を埋葬するためのものと考えられないでしょうか？宗教性のある／なしが問題ではないのです。戦死者を出さないということが問題なのです。

私(A・K)は「戦争」というと「湾岸戦争」をリアルに思い浮かべます。日本は湾岸戦争で、多額のお金を多国籍軍に支出しました。アメリカはイラク攻撃に劣化ウラン弾を使用しました。イラクでは、現在高い割合で、「しょうがい」をもった子供が生まれています。「奇形児」も少なくありません。白血病を発病する人々も多くいます。劣化ウラン弾の被爆によるものであることは言うまでもありません。私たちは、お金を支出した時点で、イラクの子供たちの命を奪っているという現実を目を向けざるを得ないと思います。そして、現在の日本の針路はアメリカ追従であるのです。

マスコミの北朝鮮報道は公正さを欠いています。金正日体制がどうであれ、生きることによって困窮する人々がいて、支援が必要な人々がいることに、我々はもっと注目しなくてはならないと思います。また港南台では、見えにくい現実として、朝鮮学校に通う児童・生徒への「日本人」による嫌がらせが(例えば川崎などで)あります。「在日」に対する我々の視線というも、我々自身による点検が必要なのではないでしょうか？



## ◆ おわりに ( A . K )

リーフレットは、神奈川での浸透は低いように思います。我々の努力も足りないのですが、いろいろなところで宣伝しているわりには、神奈川教区での浸透率は低いように思います。

港南台教会ではたくさん買ってもらいました。それから地方のヤスクニ運動に取り組んでいる教会からもたくさん買ってもらいました。ただ、中心的な活動家が求めるというケースが多いように思います。ヤスクニ問題は一人ひとりの信仰者の問題にかかわってくることで、一人ひとりの信徒が、学び、語り、伝える課題に発展していくよう、更に努力を重ねたいと願っています。

参考資料「小泉首相への抗議文」

2003年1月23日

内閣総理大臣  
小泉純一郎 殿

### 靖国神社参拝に対する抗議声明

日本基督教団 神奈川教区 社会委員会 ヤスクニ・天皇制問題小委員会

私たちは、去る2003年1月14日に行われた貴下の靖国神社参拝に対して、強い憤りと深い悲しみを覚えます。私たちは、貴下による過去2回の参拝を含め、日本国の首相である貴下の靖国神社参拝に対して、ここに強く抗議いたします。

日本国の代表者である首相が、一宗教法人である靖国神社を公人として参拝するという事は、首相が宗教活動をしていること以外の何ものでもありません。首相自らが、憲法で保障されている信教の自由を侵害しているのみならず、私たちキリスト者をはじめ全ての宗教的少数者の良心を踏みにじっているのです。首相の靖国神社参拝は断じて許されるものではありません。

また、小泉首相の靖国神社に対する歴史認識の浅薄さをも指摘しないわけにはいきません。報道によると、貴下は記者団に対して「不戦の決意を新たにするのは、いい時期ではないかなと思いました」と述べましたが、靖国神社は、戦争中「靖国で会おう」という合言葉のもとに、多くの国民を戦場に駆り立てていった精神的支柱でありました。貴下が述べる「不戦の決意」からは程遠い、それどころか『戦争のための神社』として国家が利用してきたものが靖国神社なのです。首相である貴下の決意がどうであれ、靖国神社の歴史的役割を意図的に隠蔽し、貴下が靖国神社を恣意的に利用している事実は決して許されるべきものではありません。守らねばならない政教分離原則を、首相自らが破壊しているのです。

更に、貴下が述べる「不戦の決意」と小泉政権のとうろつとしている日本の針路とは大きな矛盾と隔たりがあります。口先では「不戦」を語りながら、小泉政権としては「有事法制」の成立を目指し、何ら議論も行わずにイージス艦を派遣させました。貴下の述べる「不戦の決意」とは裏腹に、イラク情勢は日増しに緊張を高め、アメリカの好戦的な政策に対しても、貴下はそれを無批判に追従する姿勢をあらわにしています。貴下は、わが国をまさに平和とは正反対の方向へ、独断かつ臆面もなく進ませようとしているのです。

私たちは、信教の自由を踏みにじり、政教分離原則を破壊する貴下の靖国神社参拝に強く抗議し、その反省と謝罪を強く求めます。また、日本の歴史、とりわけ靖国神社の問題性と真正面から向き合うことを強く要求します。そして、貴下が靖国神社でなされた口先だけの「不戦の決意」などではなく、平和の実現に最大限の努力を払うことを強く要求するとともに、貴下が靖国神社参拝を今後一切行わないよう、強く要求いたします。



A：靖国問題についてSさんやA・Kさんが取り組んでいる基本的な考え方には賛成だが、なぜ中国や韓国が総理大臣が靖国に参拝するたびに大反対するか、その辺の分析をもう少ししなければいけないと思う。抗議というよりも、腹の中が煮え繰り返るような気持ちで言っていると思う。中国の戦犯は誰一人死刑になっていない。中国人の寛容な態度に私たちは応えなければならないのに、しっぺ返しするような態度を日本人が返していることは、過去に遡って分析して、「我々日本人って一体どうなのか？」という問題の投げかけ方をする必要が あると思う。

韓国はそういうことはなかったが、やはり彼らだって40年近く植民地政策を受けた。今の北朝鮮の拉致問題どころではない。日本は何十万という人間を拉致してこき使って奴隷的なことをやったわけだが、そういう教育をもっと若い層にしなければならないと思う。学校教育では期待出来ない。学校教育では日本史の教育と言うと、明治まで来ない。たいてい江戸時代の末期ぐらいで終わってしまう。逆に現代史から教えるようになったら、随分変わって来ると思う。

もう一つは、日本国憲法は絵に描いたぼた餅だと思っている。中身がない。国際法と国内法と言ったら、国際法優先で国際情勢に左右される。平和憲法の第9条は絵に描いたぼた餅なので、再検討しなければならないと思う。特に中機連のレポートなんか一部の人が知らないと思う。ああいうことをもっと取り上げて日本と中国の関係を見直す資料にしたら、随分違うと思う。

B：韓国の人たちの問題にはこういう面があると思う。いわゆるB・C級戦犯はA級より下ということになるが、中堅の軍人たちが戦争裁判にかけられて随分死刑になっている。日本人も多いが、それは捕虜の虐待とかいろんな虐殺の責任を取らされてなっている。そういうB・C級戦犯で処刑された人たちの中に韓国・朝鮮の人たちが多く。そういう人たちは日本の皇民化政策の中で一生懸命主要な帝国軍人になろうとしてその結果、日本の戦争犯罪の責任を取られ、死んでいった。二重の意味で韓国の人たちにとっては屈辱である。そういうことが今、日本に対する反発として公然としてきたと思う。80年代からそういう動きが顕著である。

A：フィリピンではB・C級の戦犯について言えば、全く責任のない人までが殺されている。「Aがやった」と言えば、Aという姓を名乗っていると無実の罪で処刑されたというようなことが数限りなくある。ただ戦争中に日本の軍人がフィリピンの住民に与えたいろんな被害に比べたら微々たるものだと思う。それに比べて中国の指導者、特に周恩来だと思うが、寛大な措置を取ってくれたので、中国という国は偉大だと思って尊敬している。全生涯を通じて僕が感心しないのは、台湾の蒋介石である。彼だって「恨みに報いるに徳をもってせよ」という声明だけは終戦直後発している。日本人を許してやろうという大きな気持ちを彼らは持っているのだから、日本人は反省すべきだと思う。

C：私は8月15日と2.11は大体東京の集会に行くが、恒常的に右翼が来る。デモをしている時に、一般の人も「お前たちは韓国の右翼だ」と言っていた。右翼がギャーギャー言うのは経験しているが、普通のサラリーマン風の男がそういうふう言うのは初めてのケースだった。たとえば国策とか、そういうのを中心にした議論が、「つくる会」もそうだと思うが、

国としてどうか、というような議論がかなり強くなってきていると思う。

A：言葉自体、教育界では「日の丸・君が代」と発言すると、この人はこういう人、「国旗・国歌」と言うと、こういう人と、同じことでも言い方で二つに分かれてしまう。僕はその中間で日の丸は国旗で、変える必要はないという持論だ。どの国の国旗でも血塗られていない国旗はないから。ただ「君が代」だけは口が裂けても歌えない。あれは大君賛歌だから、民主主義に反する。ただそういう中間の立場はなかなか受け入れられない。日本人の子どもが海外に行って国歌も歌えないというのも困るけど、「君が代」を歌われたら、また困る。今まで反対運動していた人たちが、どうして新しい国歌を対案として出さなかったか、残念に思う。

C：反対の立場もいろいろあると思う。私は多分アナキストに近いと思うので、国家そのものというふうになった時、国境線を自分の頭の中に真っ先に引いているものだから、もっとボーダレスでいいんじゃないかと思う。

A：僕は絶対反対。国家があるからそういう考えが出て来る。なかったら悲惨だ。フィリピンの国民の半分は、フィリピン人でなければよかったと思っている。実際何百万という人が出稼ぎに行っている。そういう人たちの生活は根無し草だ。どこへ行っても「あんたの国、どうなっているの？」といじめられる。女性でメイドになって行って、レイプされて殺された例がいっぱいある。ボーダレスは21世紀の合言葉だけれど、日本の明治維新と同じように、各藩が合体したって藩というものは精神的にある。僕は国境線は否定するが、国民のアイデンティティは大切にしなければもたないと思う。

D：国というのは国を出てみたら分かる。パスポートがいかに大切か！ いろんな国に入るたびにチェックされるが、パスポートを持てる国は幸せだ。私の今一番の関心事は有事法である。有事法がまた国会に提出されるが、これはよく考えないといけない。今の時代、「簡単に戦争には行かない」と言う人がたくさんいるが、戦争は急には来ない。私は有事法の勉強を皆がしなければならぬと思う。

A：小泉さんが有事法について「備えあれば愁いなし」と「治にいてなお忘れず」をアピールしている。僕は違うと思うが、そう受け止めている人も結構いると思う。有事法がなくて戦争に巻き込まれた時、じゃあ全部超法規でやるか、という問題がある。日本が外国から攻められないという確信がある？ 日本は海に囲まれて国境に接していないから、そういう安易な考えを持っている。何かあったらどうするかをきちんと決めておくべきだと思う。

D：その話と今出されている有事法とは別だ。今出されている有事法は戦争をするための有事法だ。そうやって何か危機がある時の対処は別に考えられる。何かあった時に、たとえば自然災害とか外国が急に攻めて来た時、今出されている有事法でなくてもそれに対処するものを考えればよい。今出されている有事法は、首相が何か決めて、国会に後で事後承諾させてもよいようなものである。

A：日本が絶対平和で他国から侵略されないのであれば、有事法は要らない。しかし北朝鮮のテポドンとかノドンとかの事実がある。あの国は苦し紛れに何をするか分からない。戦争中の日本と同じような状況にあると思う。小泉さんに賛成するわけではないが、何かあって

から準備するのでは間に合わない。そのことを皆さん考えていないと思う。

E：Aさんには要するに平和憲法ではダメで、自衛のための軍隊を持つべきだという考え方が根本にある。

A：憲法9条で絶対に軍隊を持たないと言いながら、ズルズル警察予備隊から始まって世界の第2番目か3番目の力を持ってきている。そういうインチキが日本の社会の歴史の始まりからある。平安時代でも律令制度という中国から持ってきた制度がありながら、摂関政治とか令外官とか、事実上政権を変えている。日本は本当に歴史的にずるい国だ。

C：食糧不足の北朝鮮は救わなければいけないと思う。何があるか分からないと言うのであれば、戦争にならないような外交的なことをこっちが積極的にやらなければいけないと思う。我々の方が恵まれているわけだから。金正日はどういう人が分からないけど、飢餓に苦しんで中国に逃げ出している人をサポートすることが必要だと思う。

国と国が争うことに対して我々市民は何が出来るのかということ、もっと真剣に考えなければならぬ。国に期待することが出来なくなる時期も遠い将来でないのではないかと。特にイスラエルとパレスチナ状況を見ると、どこかの国が介入して止めなければいけないと思うけれど、なかなか終わらない。向こうで草の根でイスラエルの兵隊を拒否する人とパレスチナ人とを対話させる取り組みをしているグループもある。丸腰で行ってイスラエルの戦車を止めるとか、そういう民間の平和部隊とかいうのもあるので、市民が戦争に対して止めるような役割、特にキリスト者はそういう役が担われていると思う。

普通の人にはアメリカをキリスト教国と見る。ブッシュの信じている宗教がキリスト教だと思っている。だからこそブッシュの言っているのはキリストの教えとは違うんだ、とキリスト者として言わなければならぬと思う。

F：先日、鶴見というニューヨークの私立大学の教授が言っていたが、今の独裁者の中で誰が一番怖い？ ブッシュも怖いし、フセインも怖いし、金正日も怖い。金正日はヤケになっているかもしれないけど、戦争する手段は大したことはない。フセインだってミサイルは持っているかもしれないけど、運搬するものを持っていない。しかしアメリカは全部持っている。一番怖いのはブッシュだ。ブッシュはキリスト教原理主義者だ。先生が先日説教で言われたように、キリスト教帝国主義と言うか、自分の考えを神の言葉に置き換えて言うのは非常に怖いと思う。

考え方はいろいろあると思うが、信教の自由がなくなってしまうたら、ものが言えなくなる。戦前の日本は、キリスト教自体が自分たちの枠を勝手に作ってしまって、政治には関わらない、というふうに萎縮してしまった部分がある。

会社ではお稲荷さんの参拝とか、何かあったら必ず神社に参拝に行く。やらないことはものすごく勇気が要る。恐らくキリスト者でそれにノーと言っている人は少ないと思う。多かれ少なかれ、みんなそんな問題に出くわしているんだけれども、言わないだけのことではないかと思う。

この前も国会でやっていたが、日経連の奥田というのはトヨタの名誉会長だが、あの人がトヨタ労組は春闘のペースアップは自主返上すると言った。そうしたら自動車労連が全部それに従う。電気労連が従う。それからトヨタでは人減らしが行われているんだけれども、サービス産業がものすごく増えているというようなことが言われている。それに対して労働組合がものを言えなくなりつつある、ということに我々は気づかなければいけない。

あまり具体的なことは、いろいろな考え方があるから教会で声明文なんかを出すのは難しいと思うけど、信教の自由とか今の靖国のことは、港南台教会として声明文を出すことも考えてほしい。何か具体的なことをやったら必ず摩擦が起きるけれど、みんなで合意の出来るところからやってほしい。ものが言えなくなるということが確実に行われている。今、トヨタが一番利益を出している。もうかっている会社がベースアップを放棄すると言ったら、他のところはどうも出来ないということだ。こんなことをやるというのは労働組合も日経連も全部歩調を合わせている、とつくづく思った。

G：先週教会に来た時に、今日Sさんが発題と書いてあったので、是非勉強したいと思って出席した。今は情報社会なのでいろんなことが耳に入って来るし、いろんなことを考える。絵を描きながら考えているが、自分がやれることは何だろうと思いつきながら聞いていた。とりあえず私はこのリーフレットを買って教室で回したいと思う。

C：一人ひとりの信仰者の課題として、信教の自由をどういうふうにとらえるか、というのが大きな課題になってくる。絶対に教会がブレーキがかかるようなことになってはいけないと思う。教会によっては、信仰者が政治のことに口を出すのはダメだ、という逆の立場もあると思う。それでもこの状況を見て、我々が平和のために祈るとか、自分の信仰の為に祈りするということは大事なことだと思う。一人ひとりの信徒が聖書を学ぶことが出来て、それを語って伝えられるような努力が、教会にしても教区の委員会にしても必要だと思う。

E：3回目の靖国参拝があったが、新聞の報道を見ていると中国・韓国からの反発の記事が多い。日本国民としては残念だと思う。日本国民の中から、これは政教分離の原則に反する、戦争賛美に繋がるからいけない、という反対意見が中心になるのが国として正しいと思う。中国・韓国から小泉さんの政治姿勢はおかしいという判断が出ているが、本来は逆ではないかと思っている。日本国民が、あれはおかしいと言いつけるような形で止めさせるべきである。

もう一つ考えさせられることは、今度の拉致問題が起こったことによって、日本の国が国家主義的な方向に向いた。拉致被害者報道を見ていると、被害というところに転じて一億同じ心を作り上げようとしている。それに乗っているジャーナリズムに対して、非常に危険を感じる。北朝鮮は、お前たちは何百万人持っていったんではないか、と思っている。その問題とお互いに誠実に向き合わない限り、日本という国は被害者意識には敏感に反応するけれど、加害責任は知らんということになって、国際的には全く信用されない国になっていくと思う。



#### 社会委員会からの報告とお願い

教会の皆様からいただいた寿町への支援物資は2回に分けて届けることができました。皆様のご協力に感謝いたします。今後ともご支援とご協力をお願いいたします